

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：15501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K18169

研究課題名（和文）インフラ整備による地域の主観的「活力」向上効果の実証的検討

研究課題名（英文）Study about the effect of infrastructure development on the subjective regional vitality

研究代表者

鈴木 春菜（SUZUKI, Haruna）

山口大学・大学院創成科学研究科・准教授

研究者番号：00582644

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では主観的な「地域の活力（Subjective regional Vitality：SRV）」に着目し、その要因と影響について基礎的な検討を行い、インフラ整備の影響を把握するとともに、実際のインフラ整備の現場においてどのような影響を及ぼすか調査・検討を行った。その結果、以下の知見が得られた。1)インフラ整備は新聞報道等では地域の活力を高めるという文脈で使われているものの、インフラ整備の程度が高くてもSRVが高くなってはいないこと 2)SRVが高いほど地域愛着やコミュニティ意識等が高まること 3)しかしながら、個々のインフラ整備事例では整備に直接的に関係した人の意識が変容していること

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、現在曖昧に用いられている「地域の活力」のイメージ（SRV）が、どのように構成されているか検討を行うとともに、SRVが変化するとどのような効果があるのかを示した。住民同士のつながりや地域活動の程度、人口特性の認知などがSRVに影響する一方、新聞報道等では多く取り扱われていた「インフラ整備」「地域行政の取り組み」は、通常時は地域活力イメージに影響は与えていなかった。但し、コロナ禍では「地域行政の取り組み」はSRVに影響を与えていた。インフラ整備がSRVを高めることができるように、整備時のコミュニケーションを工夫する必要があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we focused on Subjective Regional Vitality (SRV) and conducted a basic study on its factors and effects to understand the impact of infrastructure development. In addition, we investigated and examined the impact of actual infrastructure development on SRV. As a result, the following findings were obtained: 1) Although infrastructure development is used in the context of increasing regional vitality in newspaper reports, the degree of infrastructure development does not result in higher SRV. 3) However, in the case of individual infrastructure development, the awareness of those directly involved in the development has changed.

研究分野：土木計画

キーワード：インフラ整備 主観的活力 ストック効果

1. 研究開始当初の背景

インフラストラクチャーの整備・運用は、経済や地球環境に影響を及ぼすほか、個々の地域の歴史や人々の暮らしなど社会や文化にも影響を与えるものである。本研究では、人々の主観的な「活力」に着目する。「地域活力」は社会経済基盤の充実やそれによってもたらされる経済的・物理的影響において論じられることが多いが、そもそも「活力」とは「Vitality」であり、社会という生命体の活性化においては諸器官に該当する経済基盤のみならず、「生命力」に該当する人々の「意志」が強くなることが重要であると考えられる。

インフラストラクチャーの整備を通じた人々の活性化については、これまで整備過程について着目されることが多かった。しかしながら、インフラストラクチャーの整備による地域意識や安心感の向上を通じて、生活行動や地域活動に対して積極的になる意志が育まれる可能性を有すると考えられる。そのような効果を適切に評価し、適切な整備方法を模索することで、今後のインフラストラクチャー整備がさらに地域社会の「活力」にとって有効であると期待される。

2. 研究の目的

本研究では、インフラストラクチャーの整備が地域住民の活力に及ぼす効果について、評価手法の開発と試行に基づいて実証的な知見を得ることを目的とした。

1) インフラストラクチャーの整備が人々の地域意識に及ぼす影響と評価手法の整理

土木構造物の整備や各種のインフラ整備を軸としたまちづくりなどが人々の地域意識に及ぼす影響について、評価手法をまとめる。

2) 住民の地域での「活力」についての実践的評価手法の検討

インフラストラクチャーの整備が先述の「地域意識」や「行動意志」の変容につながることで、地域の活力に寄与すると考える。具体的なインフラストラクチャーで評価する手法について、尺度・評価方法について取りまとめる。

3) 地域意識の向上が住民の地域での「活力」に及ぼす影響の検証

本研究では、2)で開発・検討した手法をもとに、実際のインフラストラクチャー整備・運用事業を対象に、住民への心理的影響を評価する。

3. 研究の方法

1) 仮説検証のための評価指標の整理と評価手法の開発

態度・行動尺度の評価指標の整理・評価手法の開発を行う。文献調査や研究者からの助言を求めながら、調査項目について検討を行う。

2) 人々の地域意識に及ぼす影響の整理

インフラ整備が主観的尺度に及ぼす影響について文献整理を行う。

3) フィールド調査実施、実事業における態度・行動検証のためのアンケート調査の実施

対象となる事業について、人々の態度・行動変容についてのアンケート調査、インタビュー調査を実施する。

4. 研究成果

1) 評価尺度の検討

文献調査を行って本研究で想定した「地域の活力」と類似の概念で使用されている尺度・項目を整理した結果、新たに尺度を構成する必要があると考えた。主観的な地域活力 (SRV) の尺度項目を作成するとともに、その効果や性質について検討を行った。まず、「地域の活力」と関連の強い語を新聞記事のテキスト分析を用いて抽出候補となる項目を抽出した。得られた項目を用いてアンケート調査を行い、SRV に影響を及ぼす地域イメージ尺度項目を作成した。その結果、「ソーシャルキャピタルイメージ」「地域アイデンティティ」「地域行政の取り組み」「インフラ整備水準」「地域人口特性」が抽出された。その後、得られた地域イメージ尺度が SRV に及ぼす影響を検討し、「SC イメージ」「地域アイデンティティ」「地域人口特性」が SRV に直接有意な影響を与える可能性を示した。地域の「主観的な活力」について尺度を作成するとともに、インフラ整備時には「地域活力」の向上を用いた説明がなされているものの、整備水準が高くて地域活力が高いとの認識につながっていない可能性を示した。

2) 地域意識に及ぼす影響の検討

主観的活力についての尺度を新しく作成したため、当該尺度を用いて地域意識に及ぼす影響の検討を行った。全国の住民を対象とした WEB アンケート調査を行った結果、主観的な地域活力の程度が高い人ほど、主観的幸福感や主観的健康感、地域愛着度、コミュニティ意識が高い傾向が示された。すなわち、地域に活力があると認識する人ほど、幸福感や健康感、地域意識が高まる可能性を示唆するものであり、地域活力の向上に資する事業を行っても主観的な「地域の活力」が適切に醸成されなければ、地域の活力が個人の活力につながるような効果が得られにくいと考えられる。

3) コロナ禍が主観的な地域活力に及ぼす影響

本研究の遂行中に、COVID-19 感染拡大による社会的な変化がもたらされた。コロナ禍の拡大によって外出が抑制されメディア利用が増加するなど、地域と住民の関わり方に変化がもたらされた。このような行動の変化によって、住民の地域への主観的な印象や認知に影響がもたらされていると想定され、SRV への影響も生じると考えられた。そこで、全国の住民を対象とした WEB アンケート調査を 2020 年 8 月に行い、コロナ禍前と緊急事態宣言下での地域との接触の状況や地域意識を調査した。分析の結果、メディアを通じて得る地域イメージは外出を通じて得る場合と比較して曖昧であること、外出が増えた人は SRV が増加し、メディアとの接触が増えた人ほど SRV は減少する傾向があったことが示された。外出抑制による地域との接触の低下は、SRV の低下につながると考えられる。一方、1) で述べた通り「地域行政の取り組み」の認知は平常時では「主観的地域活力」に影響を及ぼすとは言えない結果であったが、コロナ禍ではこの影響は有意であった。

4) インフラ整備が地域活力に及ぼした影響についてのフィールド調査

a) 出雲大社前参詣道・神門通り-の整備について

観光地におけるインフラ整備が中期的に及ぼす影響について、島根県出雲市出雲大社地区の神門通り整備事業を対象として検討した。比較のためそれまでに行われた調査を整理したのち、交通量調査、アンケート調査、文献調査を実施し、分析した。その結果、インフラ整備が「時間価値」「利益」「利用者数」を向上させ、観光地の活性化や観光の質の向上、地域の活性化に繋がる可能性を示した。

加えて、関係者へのインタビュー調査を行い、インフラ整備にともなう環境の具体的な変化と当該事業に対する主観的コミットメントが地域の主体的自己効力感に影響を及ぼす可能性を示唆した。

b) 山口市のコミュニティタクシー運営事例

山口市で行われている住民主体の交通運営を対象として、交通担当者および地域住民にヒアリング調査を行った。地域の主体的自己効力感が存在する地域では、地域公共交通の維持に関して主体的な議論が展開する様子を観察した。また、地域住民による継続的な主体的議論に及ぼす影響について参加者の構成や会議の形態などを分析し、地域の活力を維持するための要因についての分析を行った。

c) 宇部市での鉄道インフラ活用事業での調査

JR 宇部線草江駅で実施された駅舎アートプロジェクトについて、アンケート調査とインタビュー調査を行い、効果検証を行った。近隣住民の自発的な清掃活動や美化活動が開始されるなど、住民の主体的な参加を促す効果が確認された。アンケート調査の結果、プロジェクト実施によって普段鉄道を利用しない層でも SRV が高まり、路線への愛着や利用意向が高まる可能性を示した。

以上のように、本研究ではインフラ整備時には地域の活力向上を謳い、実際に多くの影響を及ぼしていることを示した。一方で、整備後には地域活力にインフラ整備が寄与したと認識されていない可能性も示した。今後、インフラ整備が主観的な活力の醸成につながるようなコミュニケーションの検討などが必要であろうと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 藤原 昇汰, 鈴木 春菜	4. 巻 76
2. 論文標題 住民の主観的指標に基づく「地域の活力」の基礎的検討 地域イメージの住民への影響について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 土木学会論文集D3 (土木計画学)	6. 最初と最後の頁 I_473 ~ I_483
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2208/jscejipm.76.5_I_473	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原 昇汰, 鈴木 春菜, 永野 慶太	4. 巻 6
2. 論文標題 観光地におけるインフラ整備の中期効果の検討 出雲大社参詣道の整備を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 実践政策学	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤原 昇汰・鈴木春菜
2. 発表標題 住民の主観的評価に基づく「地域活力」の基礎的検討 - 評価尺度と地域評価が及ぼす影響について -
3. 学会等名 土木学会中国支部第71回研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤原 昇汰・鈴木春菜
2. 発表標題 観光地におけるインフラ整備の中期効果の検討 - 出雲大社参詣道の整備を事例として -
3. 学会等名 第60回土木計画学研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木春菜・中野貴博・伊藤淳
2. 発表標題 地域鉄道の駅活性化による地域住民の態度・行動変容効果の検討 JR宇部線草江駅駅舎 アートプロジェクトを対象として
3. 学会等名 第57回土木計画学研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木春菜・小林篤・元永直耕
2. 発表標題 小型EVの効果的な経験誘発に関する考察
3. 学会等名 第73回土木学会年次学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木春菜・小林篤・元永直耕
2. 発表標題 パーソナルEVの効果的な経験誘発について
3. 学会等名 第13回日本モビリティ・マネジメント会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木春菜・中野貴博・伊藤淳
2. 発表標題 「恥ずかしい」から「誇らしい」へ - 駅舎アートプロジェクトの「協働」と「目に見える変化」が駅を支える地域を育む - 宇部線草江駅の事例
3. 学会等名 第13回日本モビリティ・マネジメント会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木春菜
2. 発表標題 参加者の構成が地域住民による継続的な主体的議論に及ぼす影響について
3. 学会等名 第53回土木計画学研究・講演会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤原昇汰 , 鈴木春菜
2. 発表標題 インフラ整備による地域の主観的「活力」向上効果の実証的検討
3. 学会等名 第61回土木計画学研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木春菜 , 藤原昇汰 , 内海健
2. 発表標題 COVID-19による移動の影響と回復 -都市と地方の差に着目して-
3. 学会等名 JCOMMモビリティ・セミナー 「アフター宣言解除：まちと暮らしのひらき方」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------